

取組みの方向性に関する論点等

取組みの方向性の視点	視点ごとの論点
①経済の再生を図り、大阪の強み等を活かしさらなる成長につなげる	
<p>需要喚起と観光産業の再生</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ ウィズコロナにおけるインバウンドについて、どう捉えればよいか ○ ウィズコロナで国内需要にどれだけ期待できるか。これまでの海外旅行を国内旅行にどれだけ振り替えられるか ○ 需要喚起に向けた方策について何が必要か。現在、府として様々な取組みを行っているところだが、それ以外に行政として何を実施すべきか
<p>成長産業育成とイノベーションの促進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大阪のスタートアップについて、どのような分野にポテンシャルがあるか ○ 健康医療産業が大阪の中心産業となるためには、何が必要か(何が欠けているか) ○ 介護産業を大阪の成長産業とするために、何をすべきか(例:介護ロボット産業の振興など) ○ オンラインファーストの視点から、ウィズコロナやポストコロナにおいて、どのような社会変容が起こると考えられるかそれを踏まえ、府として何をすべきか
②雇用の確保やセーフティネット機能を土台に、ニューノーマルに対応した新たな働き方・教育を推進する	
<p>雇用の確保とニューノーマルに対応した働き方</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ リモートワークの進展を契機に、多様な働き方が浸透するかどうか。 ○ 女性や高齢者、若者、障がい者などの就業率の向上を図るため、これまでの取組みのほかに、行政として何をすべきか ○ 失業者の多い業種から人手不足の業種へ向けて雇用の流動性の確保するためには、どのような視点が必要か(職業訓練の高度化、兼業・副業を含む) ○ 第二の就職氷河期をつくらないためには、どう取り組むべきか ○ 上記以外に、重要な視点はありますか
<p>オンラインを活用した切れ目のない学習機会の提供</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ ニューノーマルに対応した教育を進めるにあたっての課題は何か ○ ポストコロナにおいて、オンライン教育の新たな活用方法はあるか ○ 大阪の成長を支える高度人材を考えた場合、どのような分野に注力すべきか ○ 今後の成長が期待されるIT分野において、どのようなIT人材の育成が必要か。また、IT人材に関する大阪の現状やポテンシャルはどうか。それを踏まえ、府としてどのように人材育成に取り組むべきか
<p>セーフティネットの強化と健康寿命の延伸</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ コロナ禍において社会的に孤立する可能性がある方に対して、今後どのような支援が考えられるか ○ 低所得者の所得が下がっているが、どのように支援すべきか ○ コロナ禍が府民生活や地域にもたらした影響は他にあるか。それらはポストコロナまで続く可能性があるか
③DXの加速や新しいライフスタイルを契機に、府内各地域のポテンシャルを高める	
<p>府内各地域の活性化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 都市でありながら働きやすさと暮らしやすさを両立する「新しい都市型ライフスタイル」に関し、「働きやすさ」や「暮らしやすさ」をどのように提案すべきか ○ 「テレワーク経験者の意識変化」や「郊外部へのサテライトオフィス設置」は、地域の活性化にどれくらいつながるか。また、府としてどのように取り組むべきか
<p>DXの加速</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ DXを進めるにあたり、どのように取り組むべきか。またDXの進展を測る指標にはどのようなものが考えられるか
<p>戦略全体に関わるもの</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今後、新型コロナウイルスの感染拡大がどれだけ続けば、経済や雇用へどれだけ影響がでるか ○ 「新たな戦略」として、「目標」を置くべきか。置くとしたら、どのような目標が考えられるか(定性・定量の両面から)